

第三者評価結果

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<p><コメント></p> <p>保育所保育指針を基に、保育理念や方針、育みたい資質、年齢ごとの保育目標、特色ある保育、研修、地域支援、小学校との連携などを組み立てている。全体的な計画は、保育士全員で振り返りを行い、反省、検討した結果を次年度に活かし、作成している。栄養士や看護師も関わり、「食育年間計画」や、「健康管理計画」も策定し、健康集会などを行っている。今年度の保育の目標として掲げた項目に、「主体的にやってみようを大切に」があり、各年齢ごとの指導計画に、自主性を目指した取り組みを入れている。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b
<p><コメント></p> <p>室内の温度や湿度に常に留意し、現在は、特に換気に気を付けている。窓は開放し、出入口も1時間に1回は開けて、換気を行っている。保育室内は、常に担当の保育士が清潔にし、季節の装飾や子どもの作品などで楽しめるようにしている。保育室内のおもちゃは、成長に合ったものを用意し、子どもたちが自分で考えて遊べようとしている。リングやフェルトなどの素材を準備して、工夫して使えるものを、手の届くところに置いている。園の周りには自然豊かな公園や霊園があり、子どもたちは、ドングリや葉っぱを拾ってきて楽しんでいる。午睡はマットを敷き、園で用意している布団を敷いている。シーツやタオルは個人持ちで、週末には持ち帰ってもらっている。布団は年度を通して同じ子どもが使い、年1回、乾燥とまる洗いを行って、気持ちよく午睡ができるようにしている。保育士全体で、子どもの人権を考え、大声を出さない、否定しないなど、言葉遣いに配慮している。</p>		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>肯定的言葉を使うよう心がけ、子どもが安心感を持てるよう対応している。ありのままの子どもの姿を、受け止めるようにしている。指示されてするのではなく、安心して自分で決め、自分でできるような声かけをしている。1歳の子どもの、「靴下が早くはけるようになったね」、「靴下のかかたがそっぽ向いてるね。直してみようか」など、それぞれの年齢や発達に沿った言葉かけや援助を行っている。子どもを誘導する時も、手を引っ張ったりせず、優しく声をかけるようにしている。また、おむつを替える時は、他の子どもから見えないよう衝立てで仕切られたコーナーで行っている。子どもの姿に応じて午前寝などで対応したり、保護者に連絡帳で状態を知らせ、家での生活リズムを整えられるよう原因を探りながら働きかけている。新年度の児童票の特記すべき点で、子どもの家庭環境を確認して、職員会議で保育士全体で把握するようになっている。</p>		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>保育所保育指針や年間指導計画に基づき、子どもたち一人ひとりの発達に合わせて、生活習慣が身につくよう、継続的に援助や働きかけを行っている。保育士の経験年数も高く、その知識や技術も加わり援助ができています。0歳児は、特にミルクを飲む時には保育士との一対一の関係を密に取り、離乳食では家庭との連携を大事にしながら、舌触りを楽しむ、スプーンになれる、良くかむなどの計画を立てて実施している。また、年齢に即して食事や排せつ、午睡、着脱などを行っている。特に言葉の領域では、話すことと同時に、人の話を聴くことを大切にして、4歳頃には友達の気持ちが理解できるよう、心の声を聴きとれるような関わりをしている。食育や健康集会を通して、命と食事の関係、身体の大切さを理解できるよう計画を立て、保育を行っている。</p>		
【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<p><コメント></p> <p>全体的な計画の中の目標、「主体的にやってみようを大切に」を目指して、保育を行っている。おもちゃは既成のものではなく、素材そのものを準備し、子どもたちがどう使って遊ぶか考えられるよう働きかけている。園庭では、古タイヤを引いたり、乗ったり、飛び越えたり、様々な工夫をして楽しみ、樽の中に入り、隠れたり、転がしたりして遊び、L字パーツで2階建の家を作ったり、電車にしたりと、子どもたちは自由に創造性を膨らませて楽しんでいる。園庭でボール遊びをしたいが、「他の子どもが遊んでいるので危ないからどうしよう」など、様々な遊びを行う中で、子どもたち自身が安全な遊び方や遊ぶスペースを考えたり、工夫したりできるよう働きかけている。室内では牛乳パックで作った保育士手作りのテーブルと椅子を使って、自由に遊んだり、手作りの衝立てでコーナーを作って遊んだり、プライベートゾーンを作ったりして遊んでいる。</p>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>児童票で子どもの状態を把握し、保護者との連携を密にしている。離乳食は、入園時や適宜、担当保育士や栄養士が保護者と面接して進めている。家庭で食べている食材の確認をしながら、園の離乳食として提供している。個別ノートや口頭で、保護者と細かく連携を取り、保護者の不安を解消するようにしている。離乳食後のミルクは、保育士が一人ひとり抱っこして飲ませ、安心感を持てるよう関わっている。また、子どもの姿や表情から応答的に関わり、子どもとの関係性を深めている。午睡の際は、SIDS(乳幼児突然死症候群)防止のため仰向きに寝かせ、5分置きに呼吸をチェックして、記録に残している。個別指導計画のもと、子どもたち一人ひとりに合った保育を行っている。</p>		

【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>子どもの自己主張を穏やかに受け止め、子どもの気持ちを尊重した温かい雰囲気を作っている。思いを言葉にできない時は、保育士がスキンシップを取りながら、「これしたかったのね」など代弁して伝えたり、しぐさや表情から、「今度これしてみようか」など読み取り、丁寧な関わりを行っている。まだ感情のコントロールができない子どもは、ワッと発散したりすることがあり、その後、階段下で動かないでいたりすることがあるが、落ちつくまで保育士はじっと待って、話を聴いている。自我を強く出す時期は泣いて訴えたり、促しに応じない場面もあるが、その気持ちを受け止めつつ、しばらく見守ったり時間を置いてから声かけをするなど、子どもの姿に寄りそった対応をしている。担任以外の保育士と連携を取りながら、不安定な子どもに関わっている。一人ひとりが、動物や果物のマークを自分のものとして覚え、自分の靴や洋服掛け、引き出しなどに貼り、自分のマークを見て片付けができるようにしている。遊具の片付けは、収納場所に写真を貼り、子ども達が自分で片付けている。事故防止のため、クラスやトイレのドアに手を挟まないように、保育士手作りの布製の手ばさみ防止を作り、使用している。食事は、こぼすことがあっても自分で食べることを大切に、手づかみ食べから食具の握りもち、三点持ちへと段階を追ってすすめられるよう、褒めながら、さりげなく支援している。栄養士が各クラスの子どもの状態を確認し、保育士と連携して関わっている。</p>		
【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>子どもの年齢や発達、興味、関心に合わせ、子どもたちが主体的に遊べるよう環境作りを行っている。3歳児は、初期は人数を半数に分け、小グループで生活できるようにして、一人ひとりの細かい部分まで、目が届くようにしている。年度後半になると、自分のことは自分でできるようになり、ごっこ遊びなど、いろいろな遊びを考え、創造性も広がってくる。4歳児は個を大切にしながら、集団の生活の楽しさを感じられるようにしている。子ども同士の気持ちのすれ違いなどがある時には、思いを十分に聴き、相手の気持ちを考えられるよう働きかけている。5歳になると、一人ひとりの個性や思いを、お互いが認められるような関わりをしている。行事などを通して、その子どもの良さを引き出せるよう、その子どもならではの取り組みを考えている。運動会などで太鼓をたたき、保護者に見てもらって、やり遂げた喜びを感じたりしながら、徐々に小学校入学への期待を膨らませている。様々な行事や生活、あそびの中で、一人ひとりが自分の力を発揮できる場面を作っている。</p>		
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>判定を受けている子どもは、療育センターに保護者と通っている。園では観察個人記録を作成し、その子どもに合った援助をしている。保護者が子どもの状態を心配し、園での様子を聴きにきたり、子育てに関する相談をしたりしている。子どもの担当は変えず、安心できる保育士が常に傍にいて、落ちついて過ごしている。個々の姿、育ちについて職員間で伝え合い共有し、手立てや関わり、支援方法を、職員会議で検討し、実践している。一人ひとり個性があることを、尊重し合える関係が築けるように、インクルーシブ保育を行い、子どもたちが共に成長できるよう保育を進めている。</p>		

【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>延長保育は、18:30から19:00までとしているが、現在の申請数は乳児3人、幼児8人で、引き続きそれぞれのフロアで過ごしている。無理なく1日が過ごせるよう、静と動の活動を行いながら、ゆったりとした家庭的雰囲気の中で過ごせるよう配慮している。クッキーやヨーグルトなどの補食を食べ終わる頃には、保護者の迎えがある。延長保育の担当は、引き継ぎ簿や保護者への伝達事項などを引き継いでいる。</p>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>卒園が近づくと小学校との交流会があり、1年生の教室で、ゲームをやったり、話を聴いたりしている。今年はコロナ感染防止で交流会が持てないため、小学校でビデオを作成して、年長児にビデオを見てもらっている。毎年1月、保護者懇談会の中で年長児クラスは、小学校進学に向けての話があるが、今年度は開催できないため、順次個別面談を行い、小学校の説明などを行っている。「幼保小連絡会議」に年長担任が参加し、情報共有や意見交換を行って連携している。年長児の担任は、子どもの成長の記録を、保育所保育要録にまとめ、小学校に提出して、スムーズに小学校に移行できるようにしている。新学期に入ると、小学校から授業参観の案内が来るので、元担任だった保育士が小学校を訪れ、子どもの様子を確認している。子どもたちはとても喜んでいる。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b
<p><コメント></p> <p>川崎市作成の「健康管理マニュアル」に基づき、「健康管理計画」を作成し、子どもたちの健康管理を行っている。家庭との連携を密に行い、保育士や看護師の視診にて、表情や機嫌、鼻水、皮膚の様子など、子ども一人ひとりの体調の把握に努め、無理なく園生活を送ることができるようにしている。毎朝、家庭で体温を測定し、記録している。0歳児は、登園時に再度、体温を計測している。看護師が毎日、「保健日誌」に子どもの健康状態を記録している。子どもの様子は、毎日のミーティングで、全職員が把握している。また、午睡時にはSIDS対策として、0歳児は5分ごと、1歳児は10分ごと、2歳児は15分ごと、3歳以上児は30分ごとに、呼吸チェックを行い、睡眠チェック表に記録している。</p>		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	b
<p><コメント></p> <p>0、1歳児は年6回、2歳児～5歳児は年3回、嘱託医による健康診断を実施している。健康診断の結果は、看護師が「すこやか手帳」に記録し、保護者が確認している。また、児童票にも「健康診断記録表」をファイルしている。歯科検診は年に1回実施し、「すこやか手帳」で保護者が確認し、児童票に記録を残している。「健康管理計画」を作成し、健康集会では、虫歯予防、手の洗い方の指導、夏場は水分補給の大切さ、冬は風邪予防、咳の仕方エチケットなどの指導を行っている。</p>		

【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>アレルギー疾患のある子どもは、医師の指示書のもと、保護者や栄養士、担任で話し合いを行い、マニュアルに沿って、除去食を提供している。それぞれの除去食の献立を、栄養士が朝のミーティングで報告している。栄養士が作成した献立は、担任と園長の確認のもと、保護者に渡している。園長が検食し、調理員と保育士間のチェック、クラスに運ばれてからは保育士同士のチェックを行っている。別トレイで、名前と除去食名を記載し、他の子どもとは別のテーブルで提供している。現在、災害などの非常食のアレルギー対応について、マニュアルの作成を検討している。</p>		
A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	b
<p><コメント></p> <p>委託業者が厨房で給食を作っている。乳児は完全給食で、幼児は主菜と副菜と汁のみの提供だが、希望者には主食も提供している。現在、ほとんどの子どもに主食を提供している。「食育年間計画」を立て、野菜の苗を植え、育て、収穫をして、厨房で調理してもらい、子どもたちは楽しみながら、育てた野菜を摂っている。大根やトマト、トウモロコシ、オクラなど、苦手なものでも、自分たちで育てたものは食べられるようになった子どももいる。また、雛祭りや子どもの日など、行事にちなんだ見た目もきれいな行事食を提供し、子どもたちが楽しく食に向えるよう工夫している。栄養士による食事のマナーや、魚の話、朝食の大切さ、健康列車による3色(からだを作る栄養素、力持ちになる栄養素、からだの調子を整える栄養素)について、栄養指導を行い、食事の大切さを楽しみながら学んでいる。食事中は保育士はあまり動かず、落ち着いて食べられるよう、雰囲気作りを行っている。</p>		
【A16】	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <p>子どもたちに好評だったか、見た目がどうか、味はどうかなどを、担任が喫食簿に記載し、栄養士と連携して献立に活かしている。子どもたちは、自分が食べきれぬ量が分かるようになり、ほとんど残食はない。伝統行事の献立を提供する他、世界の国の料理を提供し、食事前に、その国の話を各クラスで行い、どんな食材が使われているか、話し合っている。旬の食材を使用し、季節感のある献立としている。また、子どもたちが食べやすいよう、一口大にしたりして工夫している。3月末には、年長児のリクエストメニューの日を設け、子どもたちが食育集会で学んだ知識を活かし、バランスを考え、その中から好きなメニューを選んで決めたものを提供している。鶏の唐揚げなどが人気メニューになっている。</p>		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
【A17】	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>「入園のしおり」で、園の生活を理解してもらい、子どもたちが安心して登園できるようにしている。保護者が安心して仕事に行けるよう、丁寧な説明を行い、不安の解消に努めている。入園後は、日々の連絡ノートや、保育の様子を写真で掲示し、各クラスのお便りなどで、園の様子を伝えている。また、送迎時の会話の中で、子どもの様子を伝えるようにしている。入園時には保育内容説明会を開催し、1年間の計画をパワーポイントを使用して、わかりやすく伝えている。今年度はコロナの関係で懇談会や保育参加などが実施できない状態であるため、登降園時には、保護者とできるだけコミュニケーションをとるようにしている。</p>		

A-2-(2) 保護者等の支援		
【A18】	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<コメント> 日々のコミュニケーションで保護者の様子をこまめに確認し、連絡帳の記載内容で、不安を感じた時は、保育士が「何か困ったことありませんか」など、積極的に声をかけ、保護者との信頼関係を築くようにしている。母親から、ついイライラして大声を出してしまったなど、話があった時は、母親の気持ちをよく聴き、寄り添いながら対応している。また、子どもには自我の目覚めから、親の言うことを聴かないことがあるため、クラスだよりに、「子どもの自我の目覚めの時期」について、コメントを載せ、一人で悩まないよう支援するなど、各クラスの年齢や発達に応じた内容を盛りこんだものを発行している。		
【A19】	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<コメント> 虐待の予防について、マニュアルを整備している。日々の親子の様子や状況の把握に努め、変化がある時は、職員同士で情報を共有し、マニュアルに沿って関係機関につないでいく体制を整えている。現在、子どもや保護者の様子から、権利侵害に当たる事例は見られていない。権利擁護の意識を常に持ち、職員は異常がないか、細心の注意を払っている。コロナ関係で長期間休んでいる子どもの家庭に、定期的に様子確認の電話を入れ、日々の状況を確認し、支援できるところから対応している。		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<コメント> 年間指導計画や月間指導計画、週日指導計画について、定期的に振り返りや見直しを職員間で行っている。改善点は、次の計画の中に盛り込み、職員全体で確認している。保育で大切にしたいことを共有し、次の保育に活かしている。年1回、保育士が「キャリアシート」を活用しながら、個々の保育の振り返りを行い、自己の反省や次年度の目標につなげている。		